

# SCHEDULE 1 → 3 月

展覧会・イベントスケジュール

芸術、科学、歴史に熱狂!

2024	1月	2月	3月	Webサイトもチェック!	
<b>大阪市立自然史博物館</b> 大阪市東住吉区長居公園1-23 TEL:06-6697-6221 開館時間:9:30~17:00 11月~2月は16:30まで (入館は閉館の30分前まで) 休館日:月曜(祝日・休日の場合は翌平日)、 年末年始(12/28~1/4)	~1/28 テーマ展示 「ジュニア自由研究・ 標本ギャラリー」 小・中学生、高校生のみなさんの の作った生き物や岩石・化石の 標本、および生物・地学分 野の自由研究を展示します。 新春ミニ展示 「辰年展」 「辰年」に関連して、「亀」にまつわる様々な標本を展示します。	2/23~5/26 特別展 「自然史のイラストレーション ~描いて伝える・描いて楽しむ~」 自然史にまつわる様々な絵や図を紹介しま す。誰でもスマホでカメラを持ち歩ける時代 に、絵や図の面白さを感じてみましょう。		    	
	大阪 歴史博物館 大阪市中央区大手前4-1-32 TEL:06-6946-5728 開館時間:9:30~17:00 (入館は閉館の30分前まで) 休館日:火曜(祝日・休日の場合は翌平日)、 年末年始(12/28~1/4)	1/10~3/4 特集展示 「描かれた人たち - 尊崇・憧憬・追憶 -」 柿本人麿や近松門左衛門ら、 当館の収蔵品から選りすぐった “描かれた人たち”(肖像画) が大集合します。	3/6~5/6 特集展示 「再発見! 秀吉の大坂城 - 金箔瓦と家紋瓦 -」 現在、豊臣大坂城石垣公開施設が建設中。 発掘資料をもとに当時の姿を紹介します。		
大阪 中之島美術館 大阪市北区中之島4-3-1 TEL:06-6479-0550 開館時間:10:00~17:00 ※2/10~5/6の期間は10:00~18:00 (展覧会会場への入場は閉場の30分前まで) 休館日:月曜(ただし1/8、2/12、 4/1、15、22、29、5/6は開館)、 年末年始(12/31、1/1)	~1/14 「テート美術館展 光 - ターナー、印象派から現代へ -」 決定版! 女性画家たちの大阪」 50名を超える近代大阪の女性日本画家の 活動を約150点の作品と関連資料で紹介。	2/10~5/6 「モネ 連作の情景」 1874年に第1回印象派展 が開催されてから150年 の節目を迎えることを記念 し代表作約70点を紹介。			
「Osaka Directory 5 supported by RICHARD MILLE 肥後 亮祐」 「温湿度計」に秘めら れたストーリーを紐 解いて、新作インス タレーション作品を 展示。	1/27~2/25 「Osaka Directory 6 supported by RICHARD MILLE 木原 結花」 アニメ等の「聖地巡 礼」から着想を得た 新作を発表。	3/9~5/6 「没後50年 福田平八郎」 没後50年の節 目に開催する本 展では、初期か ら晩年までの作 品を一堂に展示 し、平八郎の画 業を広く紹介。			
大阪市立 科学館 大阪市北区中之島4-2-1 TEL:06-6444-5656	改修工事のため2024年夏(予定)まで休館 2024年 3月まで 実施中! 「おでかけサイエンス」 科学館休館中に皆様のごところへ、実験ショー、 工作教室、講演会などサイエンスをお届けします。				
大阪市立 美術館 大阪市天王寺区茶臼山町1-82 (天王寺公園内) TEL:06-6771-4874	改修工事のため2025年春(予定)まで休館 京都に 貸出中! 京都国立博物館名品ギャラリー展 「蘇軾を憶う」 大阪市立美術館の所蔵作 品を京都国立博物館で展 示予定です。				
大阪市立 東洋陶磁美術館 大阪市北区中之島1-1-26 (中央公会堂東側) TEL:06-6223-0055	改修工事のため2024年春(予定)まで休館 オンラインショップで図録やグッズ販売中! Instagram (@moco_press) も要チェック!				

# OSAKA MUSEUMS

見て、感じて、  
開け好奇心。

VOL. 27  
2024.1 → 3  
TAKE FREE



あの熱狂を再び!

## OSAKA MUSEUMS

VOL.27

2023年12月22日発行

発行/(地独)大阪市博物館機構  
 大阪市中央区大手前4-1-32 大阪歴史博物館内  
 TEL:06-6940-4330(代表)  
 制作/(株)ウィルコミュニケーションデザイン研究所

大阪市博物館機構から日々情報を発信しています!



X(旧:Twitter)



Instagram



Facebook



YouTube

アンケートに  
ご協力ください

抽選でチケットを  
プレゼント!



BACK IN THE 1970s

— 再び訪れる大阪万博編 —

# BACK IN THE 1970s おどろかす大阪万博編

大阪・関西万博まで1年と少し。OSAKA MUSEUMSでは今号と次号の2号に渡って万博を大特集!今号では、1970年の大阪万博関連アイテムを一同に集めて、あの熱狂の時代にお連れします。

軽トラで運ばれた!?  
世界最大の

鹿

床面から肩までの高さは約170cm。間近で見ると、その大きさに圧倒!



30年間、  
玄関ホールで人々を出迎えた  
《ブリティッシュ・コロンビア州館  
ヘラジカのはく製標本》

大阪市立自然史博物館

ウマのような長い顔、スラッと伸びた脚、盛り上がった肩…世界最大の鹿といわれるヘラジカのはく製標本が、本館1階の玄関ホールに展示されていたことをご存じでしょうか。じつはこのヘラジカ、大阪万博「ブリティッシュ・コロンビア州館」で展示されていたもの。オスとメス、子どもの3頭の展示でしたが、メスのみを同館の前身である大阪市立自然科学博物館が譲り受け、1974年の大阪市立自然史博物館開館時から2006年まで来館者の目を楽しませていました。当時の記録はほとんど残っておらず、万博会場から軽トラの荷台に載せて運んだらしい、という話が伝わるのみ。ヘラジカの頭部が軽トラの荷台の幌から突き出ているのがギョッとさせたとか。現在は収蔵庫に保管されており、友の会向けなどのバックヤードツアーで見学できます。万博の熱狂を静かに語るヘラジカに会いにぜひどうぞ。



万博のサテライト会場と考え、足を伸ばしてください!

和歌山育ちの私は、万博と同時に開発された「千里ニュータウン」に親戚が住んでいたこともあり、何日か会場に足を運んでいくつかのパビリオンを見学しました。そんなおぼろげな記憶の中でも鮮明に焼きついているのは、ある夜に太陽の塔が“片目だけ”光っていた姿です。一瞬の光景が何よりも心に残っているのは、不思議なものです。

大阪市立自然史博物館は、当時は小さな博物館で万博との深い関わりはありませんでしたが、閉会後にチリ館から岩石・鉱物6点、ソ連館から木材標本15点、ブリティッシュ・

コロンビア州館からヘラジカ3頭のうち1頭のはく製標本を譲り受けました。ちなみに他の2頭は行き先不明、角のあるオスは百貨店に売却されたという噂も…(笑)。

2025年の万博では、広くアンテナを張って来阪される皆さまが当館をサテライト会場的に捉えて、特別展などに来ていただけるとありがたいです。

大阪市立自然史博物館  
川端 清司館長



驚きと感動が山をこぼす



入場券と各パビリオンのパンフレット

当時の現状がありありと伝わる  
《日本万国博覧会公式ガイド》  
《パビリオンのパンフレット》  
《タイム・カプセル》

## 大阪歴史博物館

世界が熱狂した1970年の大阪万博。当時の状況を知る手がかりになるのが、パビリオンのパンフレットと公式ガイドです。参加国や企業などがデザインした各パビリオンのパンフレットと、画家の猪熊弦一郎氏が表紙を手がけた公式ガイドを手に、当時の来場者たちはパビリオンをめざし、未知の世界に心を弾ませていたようです。

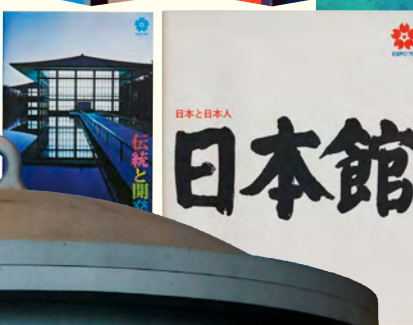
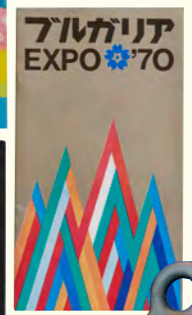
また、当時話題となった展示の一つがタイム・カプセル。大阪万博が開催された1970年の5000年後に開く1号機と、2000年に第1回目の開封を行い、以降は100年ごとに開けて中身の保存状況を確認する2号機の2つが埋設されました。大阪歴史博物館で保存しているものは構造も中身も1号機・2号機とまったく一緒。収容物は専門家と一般人の公募で決め、当時の文化を象徴するレコードや衣類をはじめ、畳や障子などの建築材料、そして笑い声や歯ざしりの音声までであるというから驚きです。すべては未来に日本の文化を継承していくため。6970年という遥か未来に開けたとき、1970年の暮らしや文化に驚く人々の姿を想像すると心が踊ります。



日本万国博覧会公式ガイド

★公式ガイド・パンフレットは7階「近代現代」フロア、タイム・カプセルは1階で展示中。

50年前の「最先端」が未来へ  
タイム・カプセル!!



万博を、大阪の歴史に触れるきっかけに!

岩手に暮らしていた私にとって万博は遠い存在でしたが、父が出張で立ち寄ったようで、パビリオンのパンフレットなどが膨大な写真とともにアルバムに整理されていて子どもながら、父が強烈な印象を受けた様子を感じたものでした。

1970年の万博終了後、松下館で展示されていたタイム・カプセルが大阪市に寄贈され、当館の前身・大阪市立博物館で常設展示をしていました。タイム・カプセルは二つあり、1号機は5000年

大阪歴史博物館 大澤 研一館長

後、2号機の次回は2100年に開封予定ですが、少なくとも私は、開封を目撃することはできませんね。

2025年の大阪・関西万博は、多くの方に大阪の歴史に関心を抱いていただく機会と考えています。大阪といえば大阪城ですが、重要な歴史的存在として難波宮があります。当館も難波宮の遺跡内にありますが、すぐ東側の難波宮跡北部地域は歴史公園として整備中で、完成は2025年3月の予定。ぜひ当館一帯を訪れて、日本最古の本格的都城であり大化改新の舞台となった難波宮という歴史拠点に触れていただきたいです。





尾形光琳筆《燕子花図》17～18世紀 大阪市立美術館蔵

横長の本作は、左端に丸い引き手の跡が残っており、床脇の小横の装飾だったと考えられる。光琳は器や提げ重などさまざまな道具にも絵を描いており、四季折々の草花で江戸の暮らしを彩った。

## 豪華絢爛！

記念切手の図柄と同年代に描かれた  
尾形光琳《燕子花図》

大阪市立美術館



1970年の大阪万博開催時に発行された記念切手の図柄に採用されたのが、江戸時代に活躍した画家・尾形光琳の燕子花図です。切手の図柄になったと考えられる根津美術館所蔵の国宝「燕子花図屏風」をはじめ、光琳作品には燕子花が度々登場しており、大阪市立美術館所蔵の燕子花図も、屏風と同年代に描かれました。金地に鮮やかな群青と緑青という限られた色使いや、リズムカルな花の配置など、随所に光琳ならではのデザイン感覚が発揮されています。本作では燕子花の根元を描かず花にクローズアップして、横に向けたり曲げてみたり、横長の構図の中でいかに燕子花を生き生きと描き出すか、光琳の工夫やこだわりが感じられます。

江戸時代から現代まで日本人の心を掴み続ける光琳作品。小さな切手になっても燕子花図は目を引き、ひと目で光琳と分かります。豪華絢爛な金箔地がいかにもおめでたく、はるばる日本を訪れる外国の方へのもてなしの心を表そうとしたのかもしれない。★2025年春のリニューアルオープン後に展示予定！

ウェルカムムードを  
盛り上げた  
光琳  
作品。

日本が誇る名品を揃えて  
万博を盛り上げます！

小学4年生の夏休みの最後に、家族で万博に行ったことを覚えています。当時住んでいた埼玉から奈良のお寺を巡って大阪に入り、日帰りするという強行軍。有名な館はイギリス館ぐらいしか入れませんでした。ソウの行進やライトアップされたスイス館がとてもきれいだったことを覚えています。お寺巡りも含めたこの1日の経験が私の関西愛になり、仏教美術史を志すきっかけになりました。そして今、新たな万博を大阪で、館長として迎えられることに深い感銘を覚えます。

1970年の大阪万博では会場に美術館が建設され、世界の美術品を集めた夢のような展覧会が開催されました。2025年は、当館もリニューアルオープンを記念した特別展を開催します。縄文時代から江戸時代に至る、日本が誇る名品を展示するのは偶然ではなく、人々が戦乱や災害などから守ってきたことを伝えたいと思います。日本が生み、守り伝えた文化をぜひ鑑賞してください。

大阪市立美術館 内藤 栄館長



## 60万人が熱狂した「夢」のワイヤレスホン。

夢の携帯電話が現実になるまで  
《携帯電話の進化と変遷》

大阪市立科学館

続々と登場する夢のような家電製品に、人々が目を輝かせた大阪万博。中でも人気を集めたのが、日本電信電話公社（現NTT）が運営したパビリオンで、電気通信館の「ワイヤレスホン」です。

館内には125台が用意され、来館者は約30分間の通話ことができました。会期中、のべ約60万人が体験したという記録が残っており、未来の電話への熱狂ぶりが伝わってきます。80年代に入ると「車載型自動車電話」が、80年代半ばには自動車から離れても利用できる「ショルダーホン」が登場。1987年にはNTTによる初めての携帯電話サービスが開始されますが、当時の携帯電話の重量は約900g!とても携帯できるような大きさではなかったようです。その後、バッテリーの小型化により携帯電話の小型・軽量化が進み、1990年代には超小型携帯が登場。文字どおり携帯電話は「携帯できる」通信手段となりました。大阪市立科学館では、実際に使われていた電話機の数々を所蔵しています。大阪万博から50年、夢の携帯電話が現実となり、今や小さなコンピューターに電話が付随するという新しい時代へ。進化の象徴である携帯電話、これからどう進化していくのか、ますます目が離せません。

★2024年夏のリニューアルオープン後に展示予定！



1989年製 セルラー HP101型



「大韓民国館」に集った

重要文化財  
高麗時代  
大阪市立東洋陶磁美術館  
(住友グループ寄贈/  
安宅コレクション)  
写真：西川茂

水注は茶や酒などの液体を注ぐためのもので、まんまるな胴体に蔓をよじ登る「ジャックと豆の木」のような童子の姿が見える。

## 高麗青磁の数々！

翡翠に似た輝きで人々を魅了  
《青磁象嵌 童子宝相華唐草文 水注》

大阪市立東洋陶磁美術館

1970年の大阪万博において、「大韓民国館」では高麗青磁などの美術工芸品が展示されました。当時の展示品の詳細は不明ですが、万博に並んだものと同じ高麗時代の名品を、大阪市立東洋陶磁美術館では数多く所蔵しています。中でも本作は、日本にある高麗青磁で重要文化財に指定されている3点のうちの一つ。蔓をよじ登る童子と、宝相華と呼ばれる花文が施されています。大きな宝相華の表現は珍しく、輪郭は一つの素材に異質の素材を嵌め込む象嵌と呼ばれる工芸技法で表しています。背景を白土で埋め込むことで文様が一層際立ち、巧みな表現はこの種の青磁の最高作と評されるほど。把手と注口の根元にも装飾が施されるなど、多彩な技法が用いられています。

高麗青磁は王朝の滅亡とともに姿を消した、いわば「幻のやきもの」。再び世に現れたのは19世紀末から20世紀初頭のことでした。インターネットやパソコン通信の発達していない1970年代、当時の人々は初めて目にする美しい釉色に魅了され、時間を忘れて眺めたのかもしれない。

★2024年春のリニューアルオープン後に展示予定！

## 「赤人間」やバルーンで跳ぶ人も。「太陽の塔」を背に全身でパフォーマンス。

万博の終盤を賑やかに盛り上げた  
《具体美術まつりEXPO'70》

大阪中之島美術館

1954年に関西で結成し、「見たことのないものを創る」をモットーに、新たな表現手法を切り拓いてきた具体美術協会、通称「具体」。1970年の大阪万博では、具体のリーダーである吉原治良が美術展示委員として参画していることから、当時の美術・芸術界での存在感の高さがうかがえます。

大阪万博の終盤にあたる8月末の3日間は、具体美術まつりとして具体のメンバーがアイデアを持ち寄って複数のプログラムを上演。場所は太陽の塔にほど近いお祭り広場。真っ赤な衣裳を身に着けた「赤人間」をはじめ、バルーンを付けて飛び跳ねるなどオリジナリティの高いパフォーマンスを披露していたことが写真からもわかります。ステージで繰り広げられるユニークなパフォーマンスに、大人も子どももみんなが驚き、喜んでいる姿が自然と想像されます。

太陽の塔があるシンボルゾーンに位置し、南北に伸びる長方形の形をしていたお祭り広場は周辺の観覧席だけでなく、近くのカフェテラスからも飲食しながら鑑賞できた。具体が繰り広げる演目と背後にたたずむ太陽の塔とのコラボレーションは非常に貴重。

具体美術資料委員会  
旧蔵資料  
(1937-1993, undated)  
大阪中之島美術館提供



名作・名品の  
ウラ側を  
探る!



# 推しの真相



惲寿平《花卉図冊》17世紀 大阪市立美術館蔵

繊細な筆致に隠された、天才画家の挫折と策略。

惲寿平《花卉図冊》

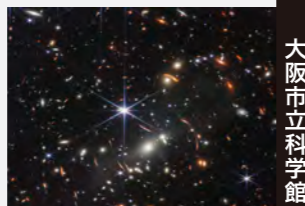
清朝時代の正統派画家のレジェンドに数えられる惲寿平。幼少期から画家を志して研鑽に励みますが、同年代の天才画家・王翬の山水畫を目にして山水畫を諦め、花鳥畫を描くようになったそうです。本作のように輪郭線を描かない繊細な作風に至った裏に、心の機微や自分の得意分野を戦略的に伸ばした策略のうまさを想像することができます。

宇宙は無限？それとも有限？

Q 宇宙の端っこはどうなっているの？

A 宇宙には、空間としての端っこはありません。ただし、見える限界としての「地平線」があります。光は進むのに時間がかかります。遠くの天体から出た光は遠くなるほど、より長い時間がかかり、何年もかかって私たちのところに届きます。宇宙は138億年前に誕生したので、遠くを見ていくと、どこかで138億年前までさかのぼることになり、それより先は絶対に見ることはできません。そこが「宇宙の地平線」です。

回答担当：石坂 千春さん(学芸員)



©NASA,ESA,CSA,STScI

知りたい気持ちに  
学芸員がお答え！  
オタクキュー

大阪市立科学館

まるで徹夜明けのような疲労感…。  
100年前の自画像に思わず共感！

しませいえん  
島成園《自画像》

近代大阪を代表する女性画家、島成園が32歳の自分を美化せず辛辣に描いたこの作品。目元の隈、乱れた髪、開いた口…、まるで徹夜明けのように疲れ切っています。20歳の若さで華麗なデビューを飾った成園が、年を重ねて制作に悩む自分を自虐的に表現したのでしょうか。ありのままに描かれた100年前の女性像に思わず「こんなときもあるよね…」と心の声が漏れてしまいそう。男女問わず、日々格闘しながら生きる現代人には共感必至の作品です。

大阪中之島美術館



画家の表情とシンクロした、背後の役者絵にも注目。



島成園《自画像》1924年 大阪市立美術館蔵  
★～2/25(日)「決定版！女性画家たちの大阪」展にて展示！

# 映えなView

こちらも見どころ

最上階から眺める、  
過去と未来のコントラスト！

10階大阪城展望ホール

展示フロアの最上階まで上がると、大阪城天守閣とその向こうに立ち並ぶビル群が目飛び込んできます。大阪城と難波宮跡が変わらぬ景観を留め続ける一方、周辺ではホテルや大学施設の建設工事が進み、町並みは日々変わり続けています。訪れるたびに新しい大阪の姿に出会える、過去と未来が混在した景色は見応え抜群です。

大阪歴史博物館



大阪城天守閣の撮影は、  
反射の少ない  
ホール右隅からがおすすめ！



破片がピッタリと  
接合できたときは  
感動ものです。

破片をつなぎ合わせて  
歴史を未来へつなぎます。

大阪市文化財協会

内業補助員 渡部都子さん(右)・和泉麗さん(左)

みんなで作り上げている。  
ミュージアムのお仕事

出土した陶器や土器を本来の姿に戻すことが私たちの仕事です。発掘されたバラバラの破片を手作業で洗浄し、大量の破片の中から割れ目の合うものを手当たり次第に組み合わせます。単調な繰り返しの中に、実は感動や驚きが日々あります。例えば、復元したものが後に歴史的な価値がある鍋島焼と判明したときはびっくりしました。誰よりも先に貴重な出土品に触れることができるのはこの仕事だけの特権であり、古代の食器や陶器から当時の生活や文化、外交にも想いを馳せることも楽しさの一つです。これからも破片をつなぎ合わせることで多くの人々に日本の文化や歴史をつないでいきたいと強く思います。

発掘調査によって出土した大阪の文化財を見ることができる！



〒540-0006 大阪市中央区法円坂1-6-41  
開館時間/9:00～17:00  
休館日/土曜・日曜・祝日、年末年始

見学は電話での  
事前予約をお願いします。  
TEL:06-6943-6833



恐竜たちの戦闘シーンを再現！  
ズールとゴルゴサウルス ボックストートバッグ  
2,970円(税込)

# COLLECTOR'S EYE

コレクターズアイ  
これはレア！

見た目はワイルド！  
広めのマチと内ポケット付き、  
オーガニックコットン使用！

白亜紀後期と同じ地層から発見されているズールとゴルゴサウルス。実はゴルゴサウルスのすねの骨から、ズールが属するアンキロサウルス科の尾のこん棒による打撃で骨折した可能性のある化石が見つかり、この絵柄のような格闘シーンが実際にあったのかも!? 体のプロポーションや鎧の配列・テクスチャーに注目し、恐竜たちの姿を細部まで精密に再現しています！



大阪市立自然史博物館

# ミュージアムの推しごと

まだある！  
ユニークで何か気になる  
ミュージアムの  
推しなコト。